

大豆「ゆめゆたか」(関東101号)の準奨励品種採用

1. 試験のねらい

本品種は、大豆の青臭みの発生因子であるリポキシゲナーゼ酵素(L-1、2、3)のうちL-2とL-3を同時に欠失しているため青臭みがほとんどなく、新しい食品素材として注目されている。そこで、付加価値の高い大豆の生産を図るため、本品種を大豆奨励品種決定調査で検討した。

2. 試験の経過

本品種は岩手大学農学部において、青臭みの主成分であるリポキシゲナーゼ酵素(L-1、2、3)を同時に欠損した実用品種の育成を目標に、昭和58年にL-2欠の「PI86023」を一回親(父)とし「スズユタカ」を反復親(母)として3回戻し交配した「L-2欠系統」を母とし、L-3欠の「早生夏」を一回親(父)とし「スズユタカ」を反復親(母)として4回戻し交配した「L-3欠系統」を父として交配を行った組合せから育成されたものである。平成元年に農林水産省農業研究センターにおいてF₆で「関東101号」の系統名を付し、4年に「ゆめゆたか」と命名された。

本県においては、平成元年から配布を受け、奨励品種決定基本調査、現地調査等で各種特性、地域適応性を検討した結果、成績が良好であったので、平成3年度に準奨励品種に採用された。

3. 特性の概要

- (1) 生育中の草姿は総じて戻し親品種のスズユタカに似ている。
- (2) 開花期はタチナガハより2日、スズユタカより1日遅く、成熟期はタチナガハより1日早く、スズユタカと同期で、大豆の生態型Ⅱcの中生に該当する。
- (3) 主茎長はタチナガハよりやや短く、主茎節数はタチナガハと同程度で、分枝数はやや多い。
- (4) 最下着莢高はタチナガハより低く、スズユタカ並である。
- (5) ダイズシストセンチュウ抵抗性、ウイルス抵抗性ともにスズユタカ並の強である。
- (6) 倒伏程度はタチナガハより多く、スズユタカと同程度である。
- (7) 子実収量はスズユタカ並～やや低収である。
- (8) 粒形は扁球、粒の大きさは中粒に属する。種皮の色は黄白で粒の光沢は弱、臍色は黄である。
- (9) 外観の品質はタチナガハよりやや劣り、スズユタカより良い。皮切れ粒の発生はタチナガハより多く、スズユタカ並～やや少ない。
- (10) 大豆の青臭みの発生因子であるリポキシゲナーゼ酵素(L-1、2、3)のうちL-2とL-3を欠くので青臭みがほとんどない。

4. 普及地帯および栽培上の留意点

- (1) 普及地帯は県中・北部とする。普及見込み面積は500ha。
- (2) 播種期が早いと皮切れ粒の発生が多くなり、品質を損ねる恐れがあるので、麦跡等に播種を行う。
- (3) 耐倒伏性はスズユタカ並みであるので、培土を十分に行う。
- (4) 最下着莢高がタチナガハより低いので、収穫作業をていねいに行う。

5. 成果の要約

県中・北部における大豆の生産安定のため、青臭みがほとんどなく付加価値の高い「ゆめゆたか」を、準奨励品種に採用した。(担当者 育種部 小島 隆)

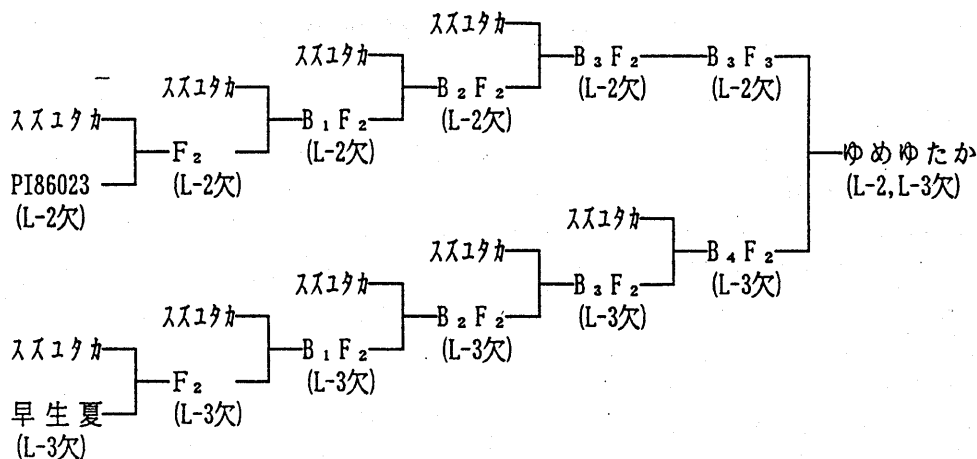


図-1 ゆめゆたかの系譜図

表-1 農業試験場における成績

品 種 名	開花期 月. 日	成熟期 月. 日	主 茎 長cm	主茎節 数/株	分枝数 本/株	最下着 莖高cm	倒 伏 程度	子実重 kg/a	同左比 %	百粒 重 g	品質
ゆめゆたか	8. 5	10.13	66	13.9	4.9	14.0	2.2	26.5	109	21.8	4.2
タチナガハ	8. 3	10.14	71	13.8	4.2	22.4	1.4	24.4	100	29.2	3.6
スズユタカ	8. 4	10.13	66	13.7	4.5	13.4	2.5	27.9	114	23.3	5.8

注 1) 平成1～3年の3か年平均。6月20日播種。

2) 倒伏程度は、0:無、1:微、2:少、3:中、4:多、5:甚。

3) 品質は、1 (上上)～9 (下下)。農林水産省栃木食糧事務所調べ。

表-2 特性検定

品 種 名	タイシストセンチュウ 抵抗性	タイシバクウイルス 抵抗性
ゆめゆたか	強	強
スズユタカ	強	強
タチスズナリ	弱	—
エンレイ	—	弱

注1) タイシストセンチュウ抵抗性は黒磯分場成績。

2) タイシバクウイルス抵抗性は長野県中信農試成績。

表-3 タチナガハに対する収量比較

現地名	播種期 月. 日	収量比 %
黒磯分場	6.29	89
塩谷町	6.19	88
宇都宮 (農試)	6.20	109
真岡市	6.30	108

注. 平成2、3年の2か年の平均。

宇都宮は平成1～3年の3か年平均。